

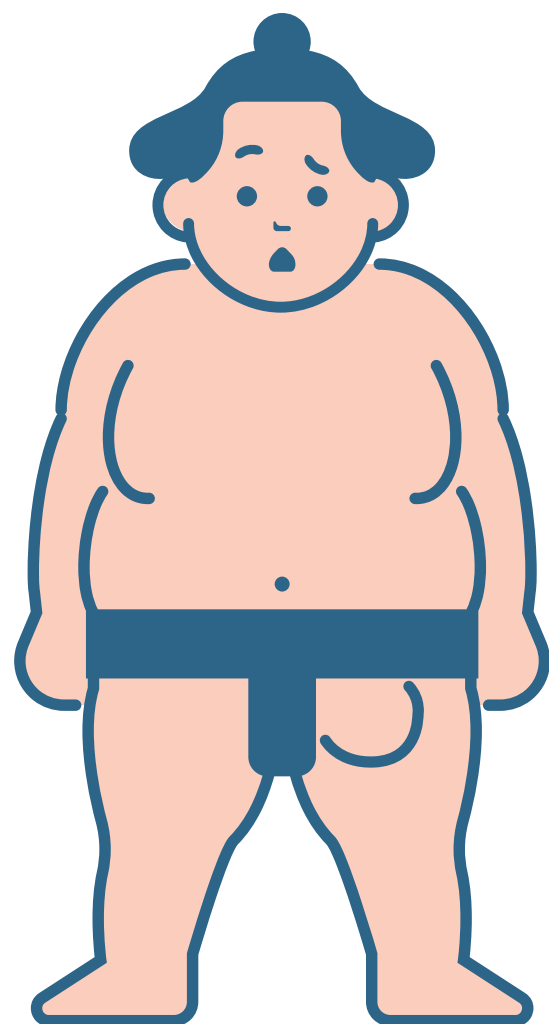
連携医療機関向け広報誌

COMPASS

N A G O Y A E K I S A I K A I H O S P I T A L

vol.12

2026 July



Inguinal hernia

- 名 称 名古屋掖済会病院
- 管理者 院長 北川 喜己
- 病床数 602床

■ 診療科（全36科）

内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、膠原病リウマチ内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科・手外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、緩和ケア内科、腫瘍内科、健康管理科、産業保健科



公益社団法人 日本海員掖済会
名古屋掖済会病院

〒454-8502 名古屋市中川区松年町4-66

代 表 TEL<052>652-7711 FAX<052>652-7783

地域医療支援センター TEL<052>652-7954 FAX<052>652-4774

<https://www.nagoya-ekisaikaihosp.jp>



WEB

Inguinal Hernia

ロボット支援鼠径ヘルニア修復術 保険適用開始

名古屋掖済会病院外科では、地域の先生方からご紹介いただくあらゆる腹部ヘルニア疾患に対応しております。他院で手術困難と判断された患者様に対しても、最新の治療法を積極的に導入することでそのご期待に応えてまいりました。鼠径ヘルニアに対しては、従来からの鼠径部切開法に加え、腹腔鏡手術（TAPP法・TEP法・LPEC法）、2021年からは全国に先駆けてロボット支援下手術（RTAPP法）を開始しております。また腹壁ヘルニアに対しても、開腹手術（Rives-Stoppa法・腹横筋リリース法）に加え、腹腔鏡手術（eTEP法・EMILOS法・IPOM法）を施行しており、今後ロボット支援手術も導入予定です。

当科では、こうした高度なヘルニア診療の実績と技術を若手外科医へ継承し、外科全体でヘルニア手術の技術向上に取り組んでおります。チームとして安定した診療体制を構築していることも当科の強みです。腹部ヘルニア診療全般において、当科は全国屈指の実績を有しております。「脱腸といえばエキサイ」をモットーに、今後も最新かつ最良の治療を紹介患者様へ提供いたします。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

ロボット支援 鼠径ヘルニア修復術

日本最多の施行実績

当科はRTAPPを2021年10月から開始して2026年5月までに259例施行しました。本邦最多の施行数です。その実績をまとめて当科独自の術式を開発して書籍を刊行しました。今までに約100施設の手術見学に対応し、約50施設の手術指導を行っており、本邦におけるRTAPPの中心施設となっております。



259例

[2026年5月31日現在]

全国唯一

五刀流の治療法

鼠径部切開法

高齢や併存疾患のために全身麻酔のリスクが高い患者様に対して、腰椎麻酔下か局所麻酔下にて施行しています。鼠径部を5cm皮膚切開して、皮下組織を剥離して、ヘルニア門を体表側（前方）から、メッシュと呼ばれる人工物を用いて蓋をする方法です。

腹腔鏡手術

腹腔内アプローチTAPP

全身麻酔下で施行します。腹部に約1cmの孔を3カ所あけて、腹腔鏡で見ながら、腹腔側からヘルニア門にメッシュと呼ばれる人工物を用いて蓋をする方法です。創部が小さく、術後疼痛が軽いため社会復帰が早いという利点があります。

腹腔鏡手術

腹膜外アプローチTEP

全身麻酔下で施行します。腹部に2cmと1cmの孔をあけて、腹腔鏡で見ながら、腹腔内には入らずに、腹直筋後鞘と腹膜の間を剥離して、ヘルニア門にメッシュと呼ばれる人工物を用いて蓋をする方法です。腹腔内に癒着がある患者様に有効です。

ロボット支援下手術

全身麻酔下で施行します。腹部に約1cmの孔を3カ所あけて、高精度3Dカメラで見ながら、多機能を持つ鉗子を使用して精緻な手術が可能です。特に困難症例（再発・巨大・肥満・癒着・術後）に対して安全な手術が可能です。

腹腔鏡下ヘルニア門縫合閉鎖術

LPEC 法

全身麻酔下で施行します。2歳以上の小児が適応です。臍に5mm、右側腹部に3mmの孔をあけて、細いカメラで見ながら、ヘルニア門を非吸収糸で縛って閉鎖していきます。創が小さく目立ちません。

ご紹介の臨床指標

脱腸と診断したら、小さくても早めにご紹介ください。鼠径部・臍部・腹部手術創部などに膨らみ（脱腸）が生じた場合は、早期対応が重要です。ヘルニアは自然軽快せず、徐々に増大し、嵌頓のリスクもあります。大きくなるほど手術は困難となり、患者様の体力も低下していきます。当科では低侵襲手術を積極的に導入しており、鼠径ヘルニア手術の多くは翌日退院が可能で、術後管理もほとんど必要ありません。

鼠径ヘルニア手術の最前線

当科は2021年本邦初のロボット支援鼠径ヘルニア修復術(RTAPP)に関する多施設共同前向きコホート研究に参加しました。腹腔鏡手術に比べて、よく見えるカメラ（高解像度3Dカメラ）の下で、精緻によく動く鉗子（多関節機能、手ぶれ防止機能、モーションスケール機能付き）を用いて、より安全で確実な手術が可能であることを示しました。これに伴い手術時間の短縮、術後合併症の低下が期待されています。世界的にはアメリカを中心に爆発的に普及しており、日本でも2026年6月から保険収載されました。ロボット支援悪性腫瘍手術と同様に今後は全国でも爆発的に普及していくと予想されます。

〈聖路加国際病院 松原猛人先生と〉





鼠径ヘルニア修復術のプロフェッショナル

医師を志した原点は、小学6年生のときに目の当たりにした交通事故だったという。血まみれになりながら懸命に心臓マッサージを続ける通行人の姿の前に、「自分は何もできなかった」。将来の生き方を悩んでいた時期でもあり、その無力感が「突然命を失う人を救いたい」という思いにつながり、外傷外科医を志した。

しかし、日本では重症外傷の症例数は限られている。外傷外科医として生きていくためには、日常診療で取り組む消化器癌手術を含めた一般外科手術技術が必要だった。一般外科医として研鑽する中で担当したのが鼠径ヘルニア診療だった。ところが、水谷医師は当初、この手術が「大嫌いだ」と率直に振り返る。穴が見えにくい、再発がある、達成感が乏しい――。従来術式への違和感は強く、決して興味を持てる分野ではなかった。

その印象を大きく変えたのが、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術であった。視野が広がり、小さな傷で治療できる。さらにTAPP・TEPという異なる術式を扱う中で、「患者さんごとに最適な方法を選ぶべき」という考えに至った。特定の術式に固執せず、「患者さんにとって何が最善か」を基準に考える姿勢は、現在の診療哲学にも通じている。

現在、水谷医師が力を注いでいるのが、ロボット支援ヘルニア手術である。「患者さんにはより良い手術を、そして外科医にも持続可能な手術を」。その考えのもと、傷の小ささや精度向上だけでなく、術者負担の軽減や若手外科医の技術習得にも大きな可能性を感じているという。長時間立位を強いられる腹腔鏡手術に対し、ロボット手術は座位で操作でき、手ぶれ補正や3D視野も備える。高度な技術を次世代へ継承しやすい点にも、大きな意義を感じている。

その根底にあるのは、恩師から掛けられた「患者さんはもつと辛い」という言葉だ。術者側の苦勞以上に、患者さんの不安や痛みを重視する姿勢は、今も診療の軸となっている。さらに胸に刻み続けているのが、「勝負は一瞬、後悔は一生」という言葉だ。外科手術、特に外傷手術はその場の判断が患者さんの人生を左右する世界である。

名古屋掖済会病院は、全国17施設によるロボット支援鼠径ヘルニア手術の臨床研究にも参画し、全国有数の症例数を重ねてきた。現在は日本ヘルニア学会ロボット支援鼠径ヘルニア手術特別委員会委員として全国の施設支援や術者育成にも尽力している。嫌いだっった手術を誰よりも深く考え続けた探究心と柔軟な発想こそが、日本の鼠径ヘルニア診療を前へ進める力となっている。

ダヴィンチサージカルシステム
(ロボット支援鼠径部ヘルニア修復術)
Mentor資格

外科部長

水谷 文俊

MIZUTANI FUMITOSHI

経歴

三重県出身 岐阜大学卒業後、大垣市民病院、
名古屋大学附属病院、国家公務員共済組合東海病院で勤務

資格

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医・評議員・ロボット支援手術
プロクター認定(大腸・鼠径ヘルニア)
日本ロボット外科学会認定国内A級Robo-Doc Pilot
ダヴィンチサージカルシステム(ロボット支援下手術)術者資格
ダヴィンチサージカルシステム
(ロボット支援鼠径部ヘルニア修復術)Mentor資格
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本外傷学会外傷専門医
日本Acute Care Surgery学会認定外科医・評議員
日本腹部救急医学会腹部救急認定医・評議員

日本臨床外科学会評議員
日本ヘルニア学会修得医・評議員
JETECインストラクター
TSAT(Trauma Surgery Assistance Team;
外傷外科手術支援隊)派遣医師
日本DMAT隊員
ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター
麻酔科標榜医
マンモグラフィー読影認定医
乳腺超音波読影認定医
臨床研修指導医
緩和ケア研修会指導者資格
SNM仙骨神経刺激療法(便秘禁)講習修了